

屬は唯 *Opephyllum* のみなり、此區は寧ろ Malay 區の内に入れて可なり。

第三。ベーリング海 (The Bering Sea region)

カムチャッカの東海岸、アリウシアン列島、Alaska の海岸を含み、總計130種にして寒帯、亞寒帯の類のみなり、特有種は41種、特有屬は6屬あり。

第四。亞米利加區 (The American region)

南北亞米利加の西海岸にして總計1185種あり、内特有種714種(60.2%)、特有屬36屬あり、日本と共通なるは185種で Australia と共通なるは224種あるが此多くは南米海岸産なりと云ふ、注目すべし。

第五。オーストラリア (The Australian region)

オーストラリアの北、東、南の海岸、Tasmania, New Zealand, Lord Howe, Norfolk, Kermadec, Chatham の各島及び南氷洋の各島を含む、總計1610種、内特有種925種、特有屬103屬あり。

第六。マレー (The Malay Archipelago region)

馬來群島より Kaiser Wilhelmsland まで含み860種あり、特有種207、特有屬10屬あり。

第七。太平洋中部 (The Polynesian region)

Polynesia, Micronesia, Melanesia 及び Hawaii を含み赤道の南北 20° づゝに互る海なり、657種の内、特有種194種(29.5%)あり、此區域は一も特有屬なきのみならず綠藻類の如きは一も特有種なし、されば此海は Malay 區中に包括さるべきものに過ぎず。

終に太平洋産全海藻總目錄あり。(G. KOIDZUMI)

石嶋氏：日本第三紀珊瑚藻族 ISHIJIMA, W.:—On Two New Species of *Corallinac* from the Tertiary of Japan, (Jap. Journ. Geol. Geogr. IX, 1932. No. 3. pp. 143—147. t. 12, 13).

珊瑚藻科化石中イシゴロモ族 (Melobesiae) のものは日本中生代及第三紀に稀ならず西和田久學氏が遠江相良の男神山、女神山の第三紀石灰岩より *Lithothamnium ramosissimum* RUESS. を報告せし以來、矢部、徳永、R. B. NEWTON, R. HOLLAND, HEYDRICH の諸氏により琉球、臺灣、小笠原島、甲斐、相模等より、*Lithothamnium ramosissimum*, *Lithothamniscus nahaense* HEYDRICH, *Archaeolithothamnium* sp., *Lithothamnium* sp., *Lithophyllum* (*Dermatholithon*) sp., 等を報告されしも、珊瑚藻族 (Corallinae) の化石は唯甲州南都留郡大石村久保井 (川口湖畔) の不純石灰岩

と小笠原母島石灰岩より *Amphiroa* sp. を報ぜられしに過ぎず。珊瑚藻族の化石は一般に少く世界を通じて白堊紀より第三紀の間に *Amphiroa* 四種、*Corallina* 一種、*Jania* 二種、*Arthrocardia* 二種の報告あるに過ぎず。

今回著者は前記久保井の御坂層より *Jania Lemoinii* n. sp. 及び遠江國榛原郡相良男神山石灰岩より *Corallina elliptica* n. sp. を記述せり。(G. KOIDZUMI)

遠藤保太郎、高瀬毅一兩氏：—グミの根瘤粘菌 [蠶絲學雜誌、第四卷、第三號、pp. 114—130, t. 1—2. 1932].

グミ類殊にナツグミの根には大小、時に拳大の根瘤がある、根瘤の組織中特に皮膚部の細胞内には粘菌の一種なる *Tetramyxa Elaeagni* Y. YENDO が存在し、菌體の一部は細胞間隙にも蔓延してゐる、粘菌體は其發育程度により又部分的に性狀を異にし營養原形體、黃褐原形體及び凝固原形體の三種に區別さるゝが何れも Diploid で核は十二箇の染色體を有す、各核は減數分裂により六箇の染色體を有する孢子母細胞となり、各孢子母細胞の染色體は直接分裂をなして四分孢子となる、孢子は水中に發芽して糸狀の發芽管を延伸し次第にアメーバ狀となるも游走性を缺く、此アメーバ狀體は *Myxamoebogametes* なるべく二つづゝ接合して *Myxamoebogygote* となりてグミの根に侵入し、細胞内にて多數の *Myxamoebogygotes* が癒合して一大 *Fusionplasmodium* を形成するものゝ如し、此粘菌は空中の遊離窒素を固定する能力ありてグミと共生するものと推察さる。(G. KOIDZUMI)

モルトン氏：コケシノブ屬の新亞屬ブエシア C. V. MORTON: Buesia, a new subgenus of Hymenophyllum from Peru in Bot. Gaz. XCIII, p. 336 (1932).

ワシントンの U. S. National Museum の C. V. MORTON 氏は南米ペルーよりコケシノブ屬 *Hymenophyllum* の一新種 *H. mirificum* MORTON を記載し、なほ本新種を type として發見者 C. BÜES 氏を記念する一新亞屬 *Buesia* MORTON を發表した。

本亞屬の著き特徴は、葉柄及び中軸上にコケシノブ屬諸種に絶えて見ない眞正の鱗片を有することである。この鱗片は線狀鑿形で基部は二、三の細胞が並び、先端は漸次細くなつて單一の細胞糸に終つてゐる。孢子囊の托は稍球形であるが、此の點では嘗て PRANTL 氏が *Globosa* と云ふ節にまとめた南米の *H. caudiculatum* MART. ジャバの *H. junghuhnii* v. d. B. 及びニューージーランドの *H. dilatatum* Sw. の三種